

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果にみる 現状と課題

1. 教科ごとの結果分析

国語

平均正答率は全国と比較すると+5.2%という結果となった。

領域別正答率「話すこと」+7.1%、「書くこと」+8.7%、「読むこと」+5.6%と、平均を上回っている。「知識及び技能」「思考・判断・表現等」の観点別では、「知識及び技能」が全国平均と比較すると+2.9%であり、「思考・判断・表現等」と比べ理解度が低いことがわかる。特に「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す」問題の正答率は-5.9%と全国、京都府平均を下回る結果となった。一方、無答率を見ると、どの問題に対しても何かしら解答しようという姿勢が見られる。また、記述式の問題に対しても、同様に全国平均と比較して無答率は大きく下回っていた。

数学

平均正答率は全国と比較すると+7.0%という結果となった。

領域別正答率「数と式」+7.9%、「図形」+6.4%、「関数」+5.6%、「データの活用」+10.1%と、平均を上回っている。学習確認プログラムでも「数と式」において京都市の平均を上回っている。この学年は、計算分野には強い傾向がある。「図形」では、本校は+6.4%と平均を上回っていた。ただ、平均正答率が他の領域に比べ低い。また、説明する問題や証明の問題の無解答率が全国平均と比較して、それぞれ12.5%、10.9%と多かった。「図形」領域を特に丁寧に指導し、授業の中で問題の解法を説明する機会を増やす必要があると考える。

英語

平均正答率は全国と比較すると+8.4%という結果となった。

領域別正答率は、「聞くこと」+7.0%、「読むこと」+8.6%、「書くこと」+8.9%と、平均を上回っている。記述問題（2問）では全国平均を2.0と10.9%上回った。短答式（3問）でも3.3、15.5、19.0%と上回った。それと同時に、無回答率も全国平均より5.8～16%低く、何かしら記述しようとした姿勢がうかがえる。学習確認プログラムの第1学年時（計2回）、第2学年時（計3回）と比べると、大幅に上回っており、着実に知識および書く力が身につけてきていると言える。

一方で、「話すこと」では5問中の全国平均が12.4%に対して、12%とわずかに下回った。筆記問題の正答率の高さに対し、話すことに慣れていないことがわかる。これも入学当初より声が小さく、発話も少なく、消極的な姿勢と、授業でパターンプラクティスのみのスピーキングで、いわゆるスモールトークなどの間違っても構わずに自由に話すという機会が少なかったことに起因すると考える。簡単な“週末のふり返し”や“昨日したことのふり返し”などのスピーキング活動を頻繁に取り入れて、自由な内容に関して発話慣れをさせる必要があると考える。

2. 質問紙調査から見てきた本校生徒の課題

○日常生活について

Q.1 「朝食は毎日食べていますか」

「食べている」・「どちらかと言えば食べている」が90.6%

→全国と比較すると少し低く、1割程度の生徒が朝食をあまり食べていない。

Q.2 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」

「起きている」・「どちらかと言えば起きている」が96.9%

→全国と比較すると大きく上回っており、規則正しい生活を送れている。

Q.3 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」

「寝ている」・「どちらかと言えば寝ている」が85.1%

→全国と比較すると大きく上回っており、規則正しい生活を送れている。

◎基本的な生活習慣は京都府、全国と比べても身につけている。しかし、朝食をあまり食べていない生徒が1割程度見られる。

○生徒について

Q.4 「自分にはよいところがありますか」

「当てはまる」・「どちらかと言えば、当てはまる」が83.6%

→8割以上の生徒が「よいところがある」と回答している。自己肯定感京都府や全国を上回っている。

しかし、本校では「どちらかといえば、当てはまらない」が12.5%、「当てはまらない」が3.9%いることも意識しなければならない。

Q.5 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」

「当てはまる」・「どちらかと言えば、当てはまる」が92.2%

→認められていることで、「学校へ行くのは楽しいと思いますか?」の回答が「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と89.8%の生徒が回答していることにつながっていると考えられる。

Q.7 「将来の夢や目標を持っていますか」

「当てはまる」・「どちらかと言えば、当てはまる」が67.9%

→全国と比較すると、夢や目標を持っている生徒は同じくらいである。しかし、約3割の生徒が、将来の夢や希望は「どちらかといえば持っていない」と回答している。

◎これらの回答から、多くの生徒は自己肯定感が高く、夢や目標をもっていることが分かる。半面、自己肯定感が低く、目標をもてていない生徒もあり、そうした生徒にこそ目を向けなければならない。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対しては、「当てはまる」が大きく平均を上回っており、日常の学校生活の生徒との関わりが、自己肯定感の向上につながっていると捉えることもできる。

○学習面について

<家庭学習>

Q16. 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」

肯定的な回答 55.5% 昨年度より+5.9%と改善がみられる。

Q17. 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」

2時間以上勉強している 39.9% 全国を上回るものの昨年度より-5.2%

勉強時間 30 分以下の割合は低い 14.8%

全国と比較して、短時間でも家庭学習を行っている。

Q18. 「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」

2時間以上勉強している 38.3% 全国より低く、昨年度より-2.9%

勉強時間 30 分以下の割合が平日より高くなる 38.3%

Q19. 「学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（インターネットを通じて教わっている場合も含む）」

「教わっている」と回答した割合 73.5% 全国より上回っている。

- ・M ノートを活用して4年目、3年生は1年から活用していることもあり、家庭学習計画の効果が表れていると思われる。
- ・通塾率が高いため、平日は学習時間が長くなっていると思われる。また平日 30 分以下の生徒も少ないことから日々の学習課題を家庭で行うことで学習時間が作れているように思われる。
しかし、休日での学習時間が大幅に減る、特に 30 分以下の学習時間が大きく上昇する（14.8% →38.3%）ことから、まとまった時間の学習や、自ら取り組むような学習時間は少ないように思われる。

<読書>

Q20. 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」

1時間以上と回答 11.8% 全国や、昨年度よりも下回っている。

10分以下と回答 22.7% 全国より上回る。

全く読まない 31.3% 全国より下回る。

Q22. あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除く）

100 冊以上と回答 43.0% 全国や、昨年度より上回っている。

Q24. 読書は好きですか

肯定的(①②)な回答 58.6%

- ・読書は好きかについての改善は見られないが、読書 10 分以下の生徒が全国と比べ多く、全く読まない生徒が全国と比べ少ないことから、好きではなくても本に触れる機会が多いのではないかとと思われる。

<教科授業全般・総合・道徳>

大きく全国を上回るもの →これらは昨年度も全国より大幅に高い

Q37.「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」

肯定的な回答 84.4%

Q40.「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」

肯定的な回答 86.7%

Q43.「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」

肯定的な回答 82.9%

全国を下回るもの →これらは昨年度も全国より低い

Q36.「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」

肯定的な回答 60.1% 昨年度と同等

Q38.「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」

肯定的な回答 64.0% 昨年度より低下

- ・これらについて、多くの質問項目で全国を上回り、授業に対して前向きに取り組んでいる様子が見られる。特に肯定的な回答の多い3つについては、昨年度と同様なことから松尾中学校の授業の強みであると考えられる。学年を越えて実践方法の共有を行っていく必要があると思われる。
- ・しかし、各教科での授業では自分の考えをまとめたり、発表したりするというアウトプットの活動に課題が見られる。総合的な学習では発表に対して肯定的な回答が多いことから、普段の授業の中で、自分の考えをアウトプットする場の設定や意識づけが必要でないかと思われる。

○国語・数学・英語について

- ・どの教科も、肯定的な回答が全国を上回っているものが多く、本調査の平均正答率も全国を上回っていることから、これまでの授業実践での成果が出ていると思われる。

○ICTの活用について

Q33. 「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」

① ほぼ毎日②週3以上を合わせた回答 68.8% 全国や、昨年よりも上回っている。

Q35. 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)」

30分以上と回答 28.1% 全国を下回る。 30分より少ないと回答 38.3% 全国を上回る。

Q34. 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか

肯定的な回答 93.0% 全国と同等, 昨年度より上回る

・タブレット端末を活用して学習する機会が増えていっている。多くの生徒が勉強に役に立つと回答しており、効果的な活用方法を授業者が提示する必要がある。しかし、家庭学習で活用する時間は30分以下が最も多く、持ち帰りしたときの家庭での使用方法について、保護者とともに考えていく必要があると思われる。

3. 調査結果をふまえて、学校が取り組んでいくべきこと

①授業について

学力向上＝授業力向上（授業の中で自己指導力・探究する力の育成）教科会や研修会を通して、授業の改善を図っていく。

・これまでの効果的な授業実践の共有

…3年生の調査結果から、これまでの取り組みの成果が出ていると思われる。現3年生が行ってきた授業実践を共有にしつつも、生徒の実態に合わせて授業改善が必要である。

・計画的な学習・家庭学習の習慣（昨年度からの継続）

…定期考査前はもちろん、普段から学習の計画を立て、実践し、確認する（PDCA）習慣、家庭学習の習慣も定着させていきたい。

・総合学習における課題解決をキャリアの視点だけではなく、地域・社会貢献につなげる

…「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」について肯定的な回答が大幅に上昇した。また「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思いますか」について肯定的な回答が全国を大きく上回る。
コロナが落ち着いて、人との交流が多くなった生徒にとって、地域・社会とのつながりはこれからより一層必要になると思われる。そのことが、目指す資質・能力の育成につながると思う。

・不登校支援、支援を要する生徒への具体的な手立て（ICT活用含む）

…全国調査を受けられていない生徒や、低学力、支援を要する生徒について目を向ける。UDと合理的配慮の必要な生徒が学習に困らないための具体的な取組と実践の必要がある。

②日常生活での目配り、声かけ

アンケートで「当てはまる」と答えていない生徒に目を向ける。

- ・「9割」ではなく「1割」がいるという意識

…例えば、自己肯定感が高い生徒、夢や目標を持っている生徒は8割程度いるが、その裏には自己肯定感が低く、夢や目標を持っていない生徒が2割いる。アンケートの結果はできていることに目がいきがちですが、「当てはまらない」と回答している生徒が必ずいる。そうした生徒に改めて目を向けるチャンスだと思う。そうした生徒がいるという意識で日々の目配りや声かけを行っていきたい。